

積み重ねて築きあげる創作の場

地域に根ざした工務店として熊本の人々の住まいをつくり生活基盤を支え続けてきたエバーフィールド
その住まいの生産拠点はこれまでに培ってきた地域の人々との絆と確かな技術力によってつくられます
地場産業としての木造建築を担う大工の育成のみならず、地域内のコミュニティ醸成のきっかけとなる
新しいエバーフィールドの創作の場を提案します



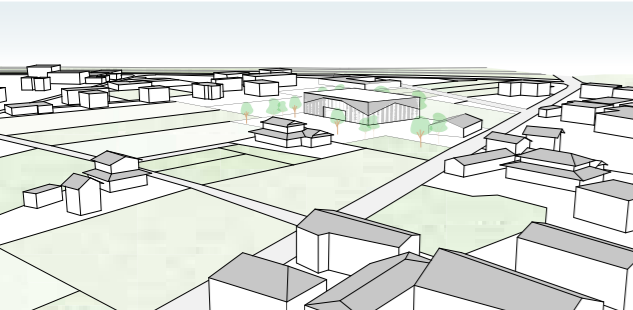
木加工場のあり方について

地域に根付き街の財産となる建物をつくる

木材加工場が周辺の人々にとって身近な施設とするために
3つのコンセプトに沿って建物をつくることを提案します。

- 1, 周辺環境とのつながりを重視した建物とする
- 2, みんなのチカラを合わせて建物をつくりあげる
- 3, みんなが自慢したくなる街のシンボルとする

これにより木材加工場は街の財産となり、地域住民の日常生活とつながりのある創作の工房となります。



周辺環境とのつながりについて

周辺環境と混ざり合う家型のファサード

近隣の低層住宅と緩やかにつながり、**景観の一部**となって豊かな街並みを形成する木材加工場をつくります。木材加工場が切妻のようで寄棟のようにも見える**家型の外観**を呈することで住宅と工場という異なるスケールでありながら**調和した街並み**を形成し、親和性を持って混ざり合います。

建物のたち方について

風景に溶け込む陽炎のような柔らかい建物

大きな平面によるマッシブなボリュームを**透過性のある外壁材**で包むことで周囲に対し圧迫感を軽減し、周辺の風景を柔らかく映し出して街並みに馴染ませます。**柔和な表情**によって**存在感を際立たせるとともに、透けて見える木造架構**が建物の**シンボル性**を慎ましく表現します。



技術者の育成の場としての活用から地域の活性化までを見据えた施設整備の提案

チカラを合わせてつくりあげる

モノづくりの良さは完成したモノに対して愛着が持てることです。建物の設計段階から建設段階、さらに加工場として稼働して以降も、各段階で**大工や近隣住民が継続して参加する仕組み**をつくります。

- ・設計段階
大工と共に実物大モックアップをつくりながら**架構の見栄えや組み方、施工方法などを一緒に考えます。**
- ・建設段階
フレキシブルな木造架構にすることで、**地元住民と一緒に**建物を完成させるプロセスを取り入れます。
- ・完成以降
工場見学や家具づくりのワークショップを定期的で開催し、**大工は教えることで技術力を高め、参加住民は造作の楽しさを体験**できます。県内の木育ネットワークの拠点となり、**地域活性化に貢献**します。

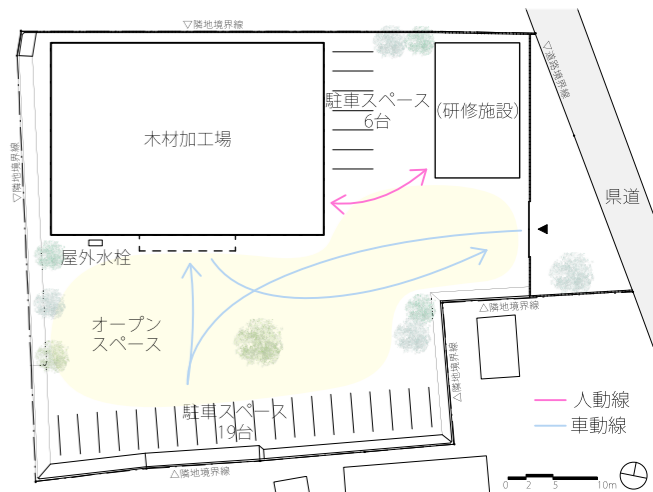


設計段階での大工とのモックアップ制作 地元住民が建設に関わる参加の仕組み 継続的な木育活動による地域活性化

配置計画について

明快で使いやすい建物配置と明るい広場

20m × 30mの矩形平面の**木材加工場**を北西の角に配置し、研修施設と近い距離関係を保ちます。**南側**は屋外での作業や搬入車両の転回、木育イベントなど多目的に使える**明るいオープンスペース**を設け、木材加工場の**大開口**(W10m × H3m)と面して**一体的に利用**できるようにします。



(様式 8)
(3枚中2枚目)



斗拱のような梁が四隅から室中央に向かって広がる



雲のような立体的な天井を見上げる



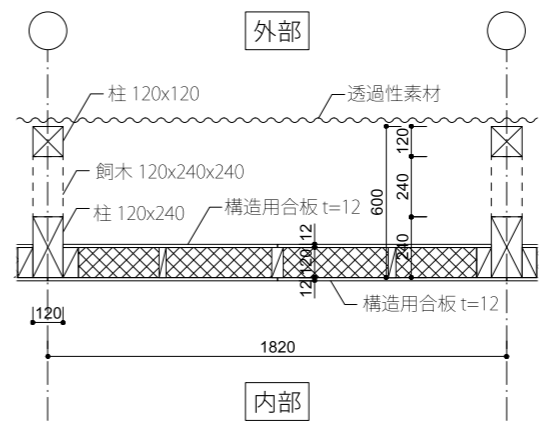
ハイサイドからの光は透かし梁によって拡散し曇天光のような明るい室内を形成

室内環境について

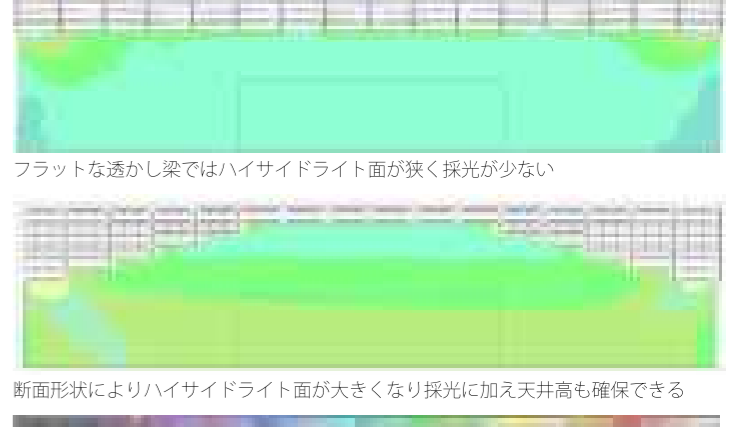
ドーム形状による高い天井・自然採光による明るい室内

作業性を考慮し搬入口 (W 10.8 m x H 3.6 m) と通用口以外は壁面とし、木屑・粉塵対策として電源 (単独回路) は壁に設け木工加工機も壁沿いに配置、中央部は資材搬入や作業スペースとして広く確保します。

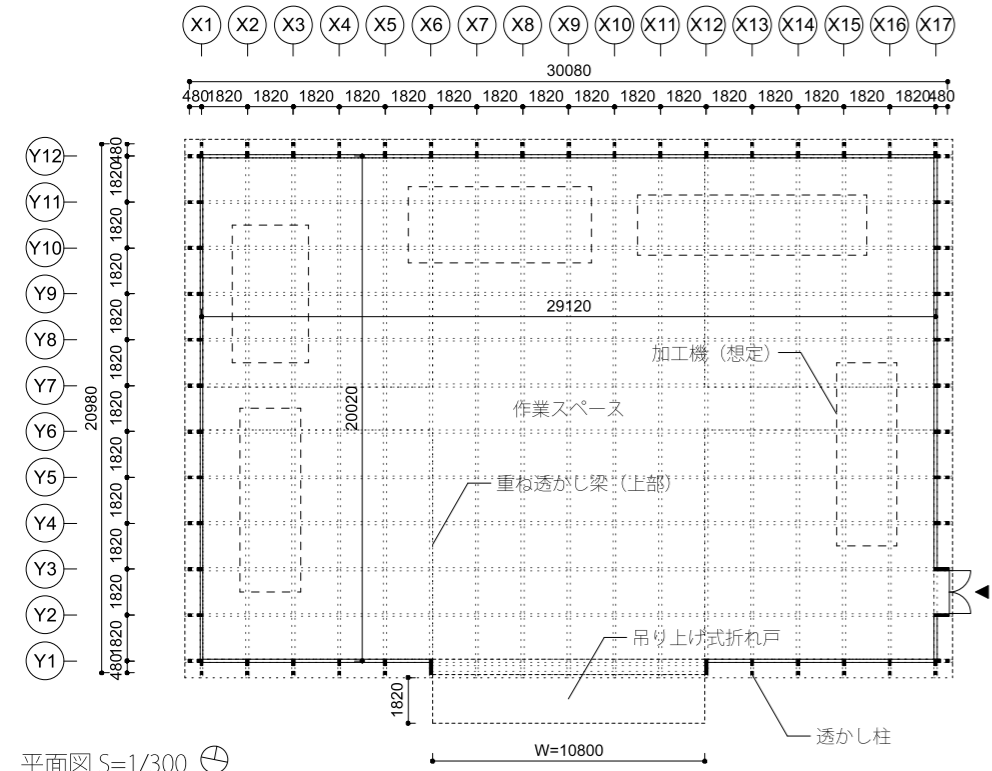
外壁は透過性のある素材で全体を覆い、木造架構を風雨から守るとともに不具合や劣化の目視点検が容易に行え、メンテナンス性への配慮と建物の耐久性向上を図ります。透かし梁とした屋根部分は架構のルーバー効果により直射を遮り、拡散した安定的な光を室内に導くハイサイドライトとして機能します。日中では簡単な作業が行える 200 ルクスの照度を自然光で確保し、夜間時は高天井用 LED 照明により 500 ルクスの照度を満たす計画とします。



平面詳細図 S=1/30



光環境シュミレーション

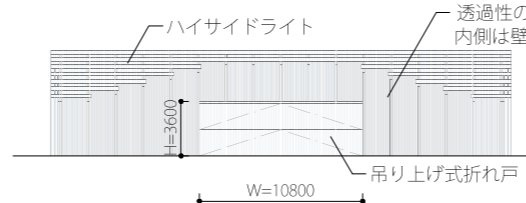


▽GL+7200

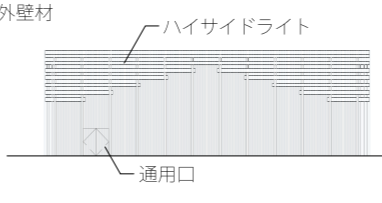
▽GL+3600

▽GL=0

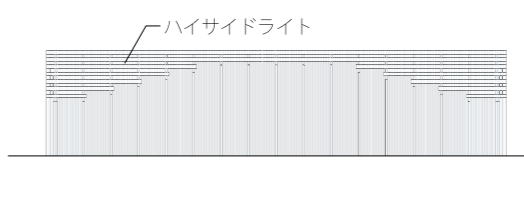
立面図 S=1/500



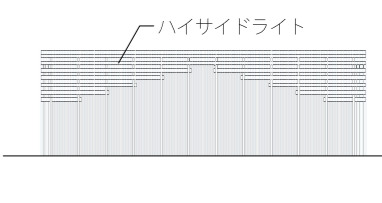
南面



東面



北面



西面

社寺建築において幾重にも部材を重ねては持ち出し、長く伸びた軒を支える斗拱(ときょう)は、**木造建築特有の構造美**があります。古来より伝わる斗拱を応用することで、**現代における美しい木造大スパンの空間**を実現します。



小断面の県産流通材を活用した木造架構

建設段階で参加した住民のメッセージ短冊板が構造の一部に入りみんなが建物に愛着を持てる

地域の工務店が施工する新しく美しい木造大スパン空間の提案

伝統木造の構造美を応用した現代木造架構

県内で生産・加工可能な製材により20mの大スパンを実現するため、**小断面材(120×240)**を用いて隙間を設けながら積み重ねる「**重ね透かし梁**」を採用します。単体の「重ね透かし梁」を格子に組み合わせることで、**2方向へ荷重を伝達**するとともに直交部材の連結により、部材の曲げ剛性を高めます。**特殊な金物や技法を用いず**、シンプルな接合部とし、大工が力を併せ丁寧に積み上げることでつくられる美しい大スパンの架構を目指します。

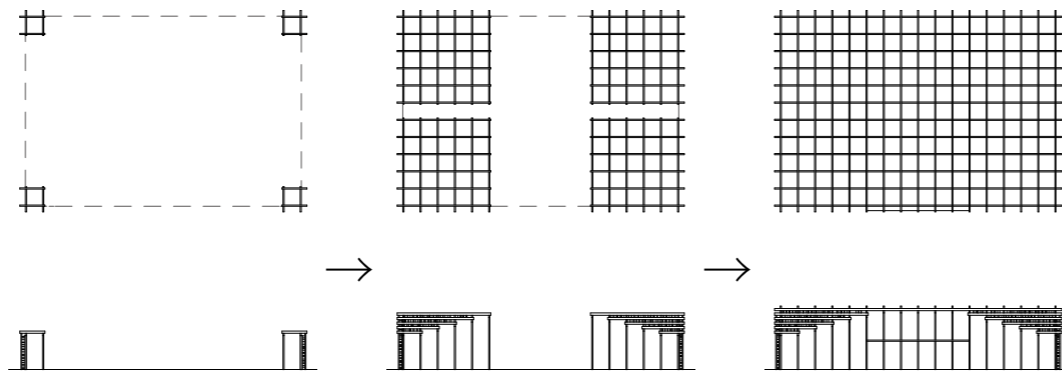


曇天のような光に満たされた室内 伝統木造の構造美である斗拱を応用

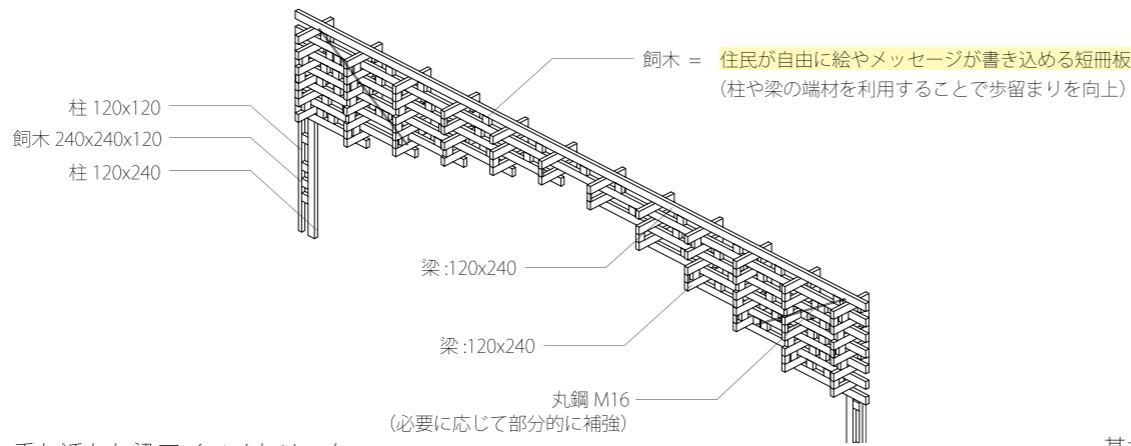
地元住民参加型の建設プロセス

隙間に設ける240x240x120mmの**飼木**は建設前にワークショップで住民に分け、**住民が自由に絵やメッセージを書き込める短冊板**とします。集まった短冊板は実際に大工によって架構に取り付けられます。完成した**架構に自分が書いた短冊板を見つけることで、住民にとっても愛着のある建物**となることを提案します。

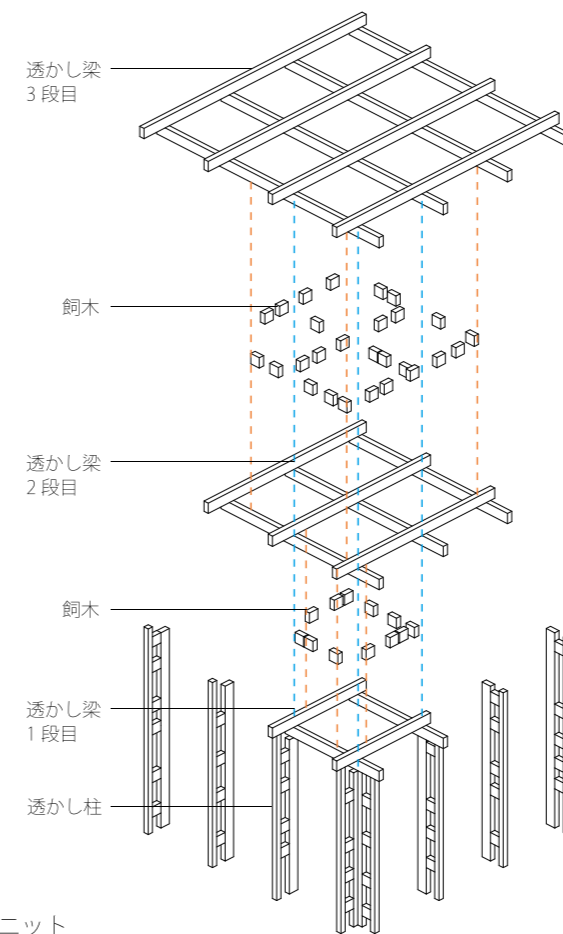
木造架構の施工方法について



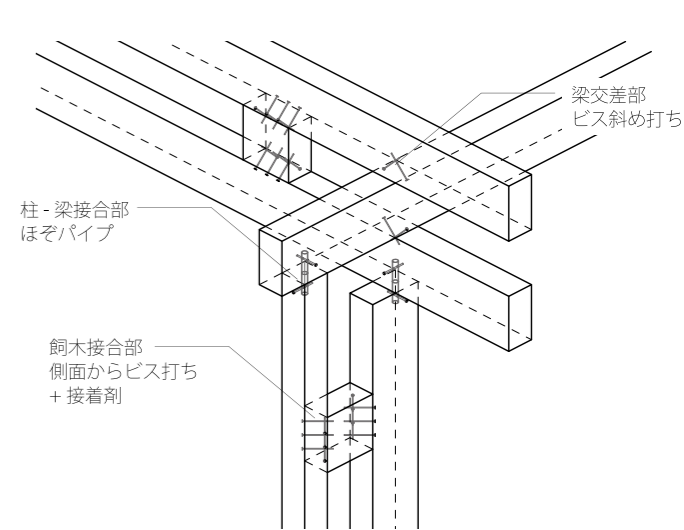
建物の四隅から室中央に梁を持ち出しドーム状の室内を形成



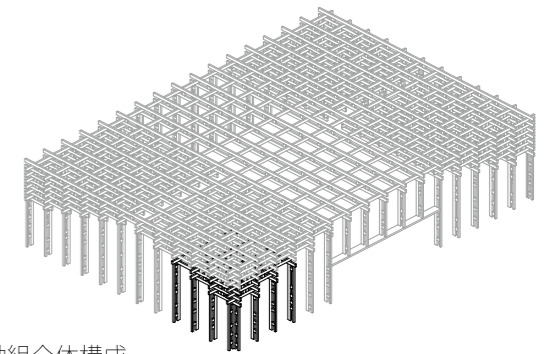
重ね透かし梁アイソメトリック



基本ユニット

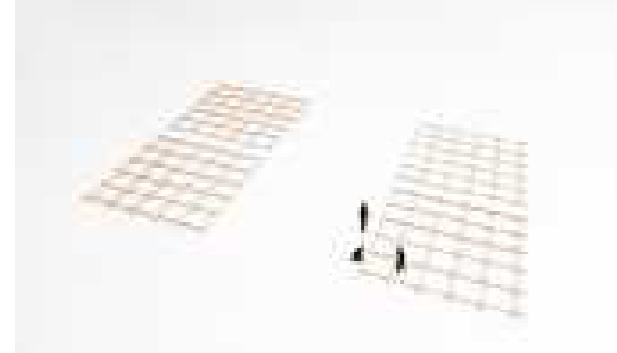


接合部詳細



軸組全体構成

1, 完成形は部屋の中央にせり出す形状となるため地上にて梁を上下に反転させて組む



2, セットバックさせながら透かし梁を積み上げ住民が思い思いに書き込んだ短冊板をはめ込む



3, 透かし梁と同様に短冊板を挟み込んだ透かし柱を立てる



4, 地組みが完了した重ね透かし梁をブロック毎にクレーンにてつり上げる



5, 20mの大スパン木造架構の完成

